



ノ紋是等ノ事ヨリ四目ヲ用キ來リ候カ、モトハ只イヅレニテモ目結ニ候ヲバ、後ニ四ツ目結ニ極リ候様ノ事ニ成リ行タルト見エ申候、是等ノ事、猶外ノ家ノ紋ニモ是有ルベク候ハンカ、

〔甲子夜話〕中川氏ノ家紋ニ、此ゴトキ紋アリ、彼家ニハ轡クヅシ、又クルストモ云ト聞ク、予

竊ニ思フ、彼先瀨兵衛ノ頃ハ、南蠻寺、盛ニ行ハレテ、瀨兵衛モ此宗ナリシト云、然バコノ紋ハ、彼ノ崇奉スル所ノ十字聖架ナルベシ、今轡クヅシト謂ハ、忌諱ヲ避ルナルベシ、又クルスト云モ、キリ

スノ蠻語轉ゼシニヤ、一日此コトヲ松平冠山因幡島取ニ語レバ、曰ク吾家ニコノ紋ヲ用ル

コト、由緒詳ナラズ、傳ル所ハ、天王ヨリ拜領セシ紋ナリト云、世上ニハ祇園守ト云ナレド、思ニ中川ノ紋ノ類ニテ、恐クハ十字ナラン、天王ノ王ハ、主ノ字ナリシモ計ガタシ杯話リテ、一咲シテ止


ヌ、又思ニ兩氏ノ紋、イカニモ蠻物ノ象ヲナセリ、薩ノ轡紋モ、ヤハリ十字ト見エタリ、封内霧島山ノ絶頂ニ建ル、天ノ逆針ト云モノ、コレ亦彼徒ノ立シ十字ナルベシト、或人云シハ、ゲニモトゾ思


ハルレ、



〔南行雜錄〕五宇喜多和泉守三宅朝臣宗能像贊

竊按和泉之前司能家家牒、世居乎百濟國、甫兒時兄弟三人、泛船來于備前一島、始厝新第、旗幟皆書兒字爲紋矣、仍其所曰兒鳥焉、

車施紋

〔鹽尻〕十二車大八葉小八葉龜甲蟹甲 車の大八葉小八葉と云は、此紋繪有より起る、慶長六

年に、宮内少輔幸綱、奥書せし車繪圖一卷、官庫に有、夫を考ふれば、八葉とは、青蓮花の八葉を

摸して、九曜の星は、これを丸くかきなせし物にや、九條關白經教公の車の繪様一卷あり、是には九曜をかけり、又龜甲の紋は、世の人普く知る所なり、蟹甲紋と云は、人玄らず、此繪

様をいふなり、

〔翁草〕五八葉の車は、輪の葉八ツ有り、常より大形成を大八葉、小さきを小八葉と云、七葉は、輪之